



希望のぞみを届けます



田中のぞみ★市政News

| Vol.101 2017年6月議会 |

6月議会 田中のぞみ議員の質問から

地域協働学校とシニアスクールに支援を

岡輝中学校区の『地域協働学校』から生まれたシニアスクールは開校15年目となりました。市長は一昨年の視察を踏まえ、「先生、生徒、シニアの方達の関係が非常に良く、学校の活性化等の効果に加え、高齢者自身も生きがいを感じられている」と評価しました。保健福祉局長も、「生きがい作りという面では非常に効果がある」とし、高齢者福祉分野でも機会を捉えて紹介したいと答弁しました。

教育委員会でも、今後「LIFE おかやま」という市のWEB ページで紹介されます。しかし、『地域協働学校』の取り組みに対しても、シニアスクール自体にも行政の財政的支援はありません。

岡山市の教育方針の2本柱である『地域協働学校』の取り組みに対し、人も財源も地域にお任せではなかなか良い取り組みは生まれません。企画単位でも予算をつけ伴走する仕組みが必要です。

待機児童対策 企業主導型保育を切り札にしないで!

昨年国において待機児童解消の受け皿として導入された企業主導型保育について、党市議団で見学しました。岡山市から「保育認定」をもらえば、保育料が安くなるとのことでしたが、一時保育の料金体系では、0歳児10分160円、ミルク20cc40円、おやつ1枚100円など、まさに保育ビジネスです。保育士の数も不明で、規定されているはずの従業員枠も無いという説明でした。

市として実態を把握しているのか、保育士は何人いるのか、保育認定を受けた市民は現在何人通っているのか、との質問に対し、市は、いっさい把握できていないとう答弁でした。すでに開所

している施設です。

基準を守っていない可能性があるにもかかわらず、市長は、「国の非常に良いアイデア」として、岡山市も奨励する立場を表明しています。

市町村は設立にも利用にも一切関与せず、国が直接認可保育園並みの補助金を出す保育施設。いわゆる認可外保育園。

もともと低い基準：保育士資格者は1/2以上、園庭やほふく室・乳児室の広さ、自園調理の規定は例外（抜けどり）あり。

定員：地域（従業員以外）枠は1/2まで。

企業主導型
保育ってなに?

保育士確保計画を

「子ども・子育て支援事業計画」で2019年度までの保育園整備を約3,000人分増やしたことに對し、必要な保育士は約500人と答弁がありました。

2016年時点で認可保育園の全職員数が約3,000人ですから、大きな数です。保育士確保計画こそ必要です。